

流出
(生)

帰還
(死)

ミタマ
御霊

(ヒ) ----- コトアマツカミの領域 -----

(ヒカリ) ----- アマツカミの領域 -----

直日 (第一魂)

直日 (第一魂) ミタマ
御魂

(第二魂)

霊

(第三魂)

念

思

身

身魂

生命力

(肉体身の中)

ウシミタマ
サキミタマ
マミタマ

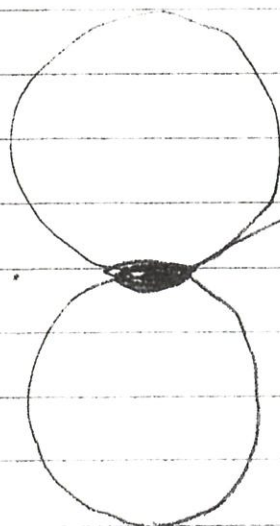
物理次元における生命力
(肉体身の中にある)

日陽宮で組み直されて、
次第に精から粗へと
次元を降って来る。

→ 逆に粗から精へと
組み直すことで、
次元を昇ってゆく。

(4つとも)

球と球との接触点を「日陽宮」と呼ぶ



2019.10.15 (火)

ヒスミノミヤ

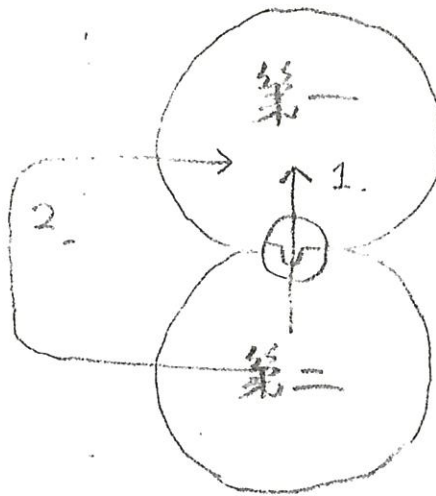
階層間と下する(空)は、日隈宮で「組直される」訳だが
この空は、或る意味では「無宇宙」である。

無宇宙 <

> 宇宙

これと全く
同様の
考え方を

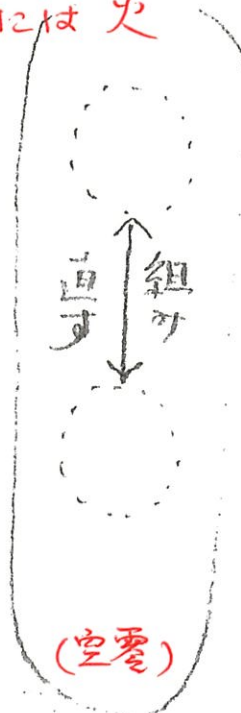
組み直す



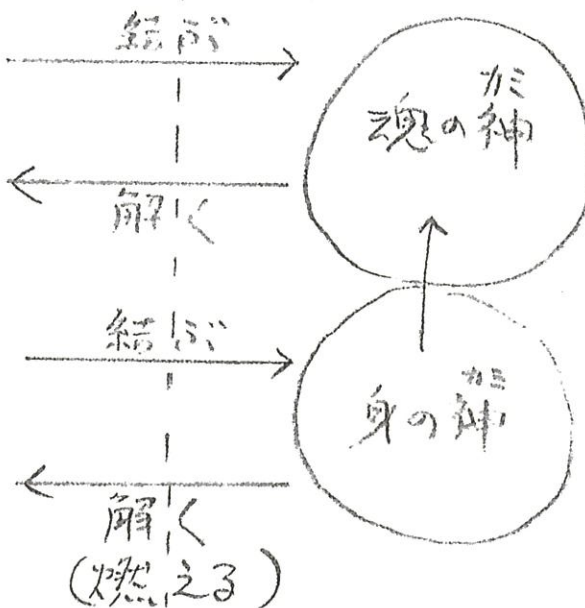
1. 普通は
おろけて平然と
こう考へているが、

2. 実際には
知覚を經由して
組み直している。

究極的には 火



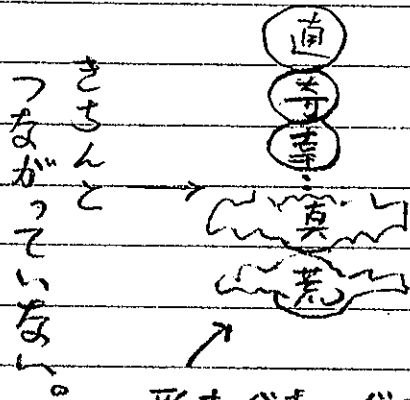
ヨモツケニ ← ヨモツヒラサカ → ナカソケニ



こうした境を
またいで存在して
いるのが、ミコトで
ある。

板模

人間身：マガビノムレ → 神の人



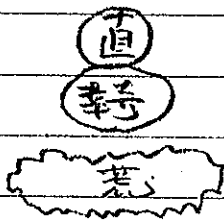
形もぐちゃぐちゃ



← 形も整い、
すべてがきさんと
つながっている。

同様に、葦原醜男 $\xrightarrow[\text{スカラに}]{\text{根の国をの国で}}$

大國主神



即ち直れる。



内包される「極」の部分と指して
「大國主神」と言う場合もある。

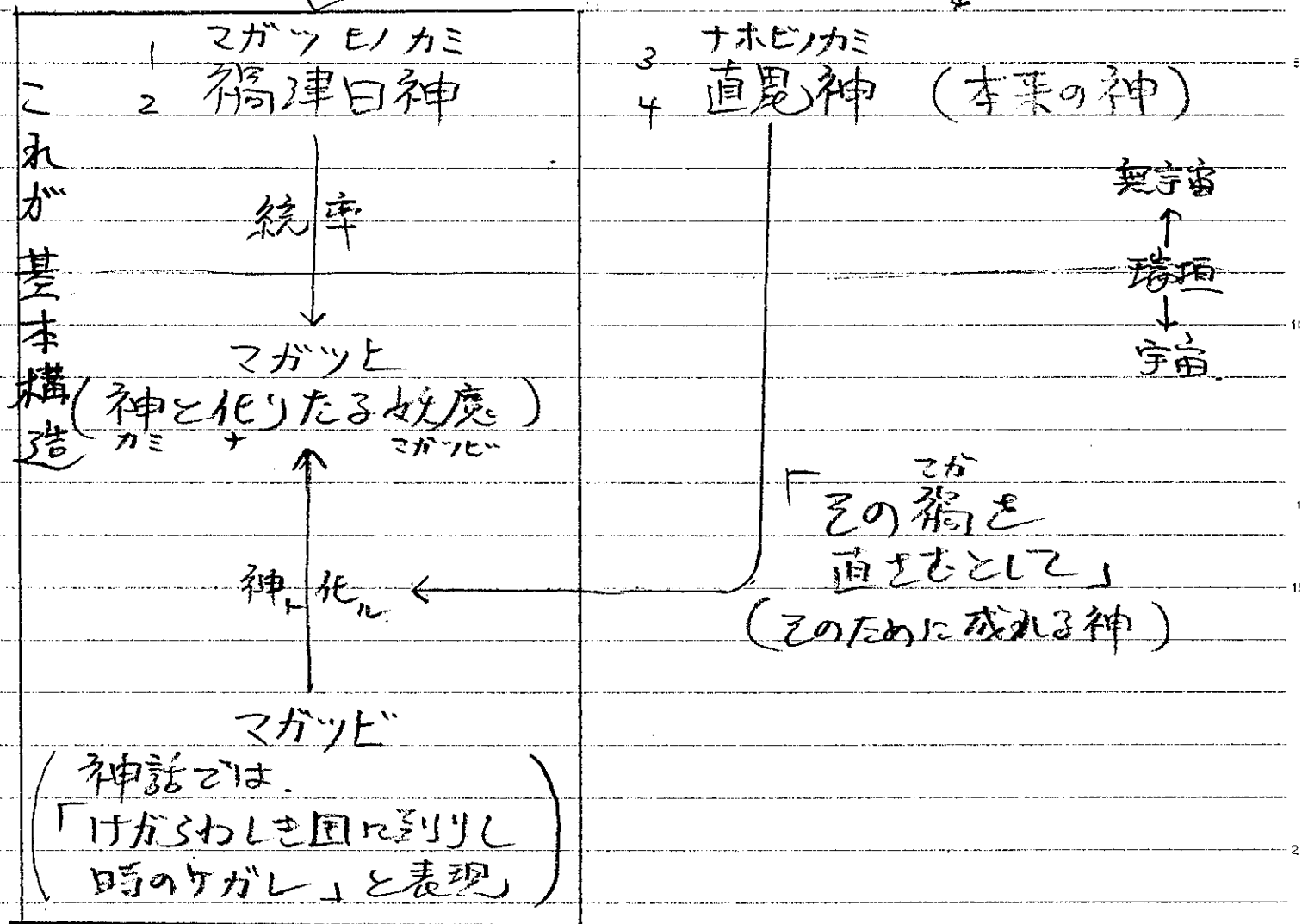
かゝる

人間はこれに神習って 神の人をめざすべきである。

(幸83では、イザナギのた化神 (化身))

付表No.

(分身神 2/9)



けがれ よ
「汚垢に因りて」は、「けがれをマガツヒに変えて
統率せんがために」ぐうの意味

付表 オホミマノハラハ

御身之禊によりて成りませる 十四神 一覧

言霊の幸
66頁より

番号	神名	集合名	その内容
1	ヤソマガツヒノカミ 八十禍津日神	ワガレ 黄泉国の穢に因りて	カミ ナ マガツヒ 神と化りたる妖魔
2	オホマガツヒノカミ 大禍津日神	成りませる二柱	
3	カムナホビノカミ 神直毘神	マカ 其の禍を直さんとして	
4	オホナホビノカミ 大直毘神	成りませる三柱	//
5	イズノメノカミ 伊豆能売神		
6	ソコツ ワタツミノカミ 底津綿津見神		イザナギノオホミカミ
8	ナカツ 中津 //	三柱の綿津見神	伊邪那岐大神御神の 氣吹の狭霧 イブキ サギリ
10	ウハツ 上津 //		
7	ソコツ ツノヲノミコト 底筒之男命		
9	ナカツ 中 //	スミノエ オホカミ 墨江の三前の大神	//
11	ウハツ 上 //		
12	アマテラスオホミカミ 天照大神御神		
13	ツキヨミノミコト 月読命	ミハシラノウヅノミコ 三貴子	ヒ 尽天尽地の丈としての 伊邪那岐命 イザナギノミコト
14	タケハヤ スサノヲノミコト 建速須佐之男命		

ナホヒ
直霊 と 空零

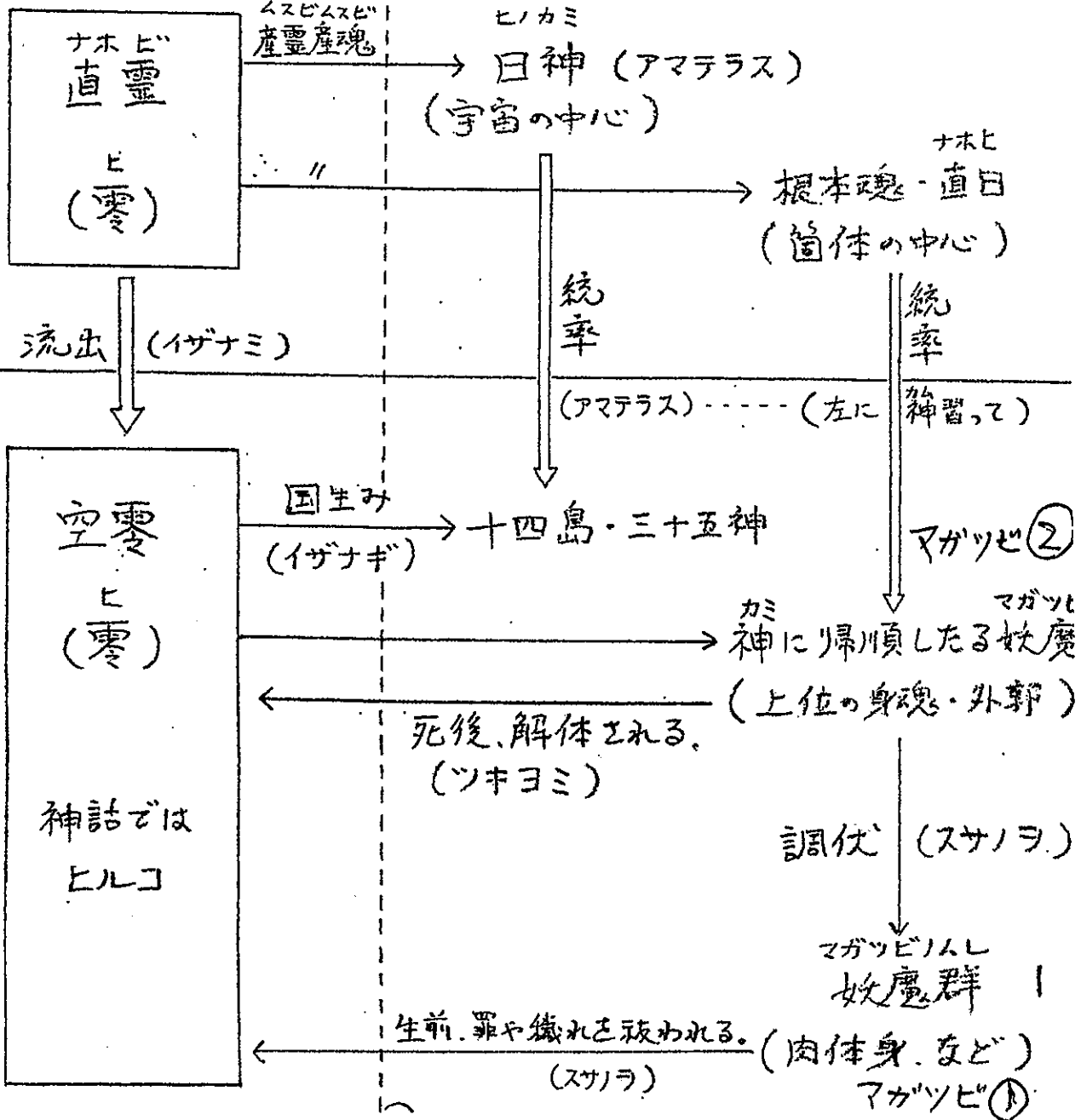
⑤ 根本資料 → 組み合わせる → 構造体 ⑨マ

無
宇
宙

ミツガサ
瑞垣

宇

宙



素材領域

宇宙では、ヨモツウニ
(イザナミ)

箇体領域

宇宙では、ナカツウニ
(イザナギ)

(ヨモツ
ヒラサカ)

白玉の、眞玉勾玉、眞つぶさに、統一る御魂。天なるや、御中の神と、神知らすなる。

怪奇異靈の神魔殿。神魔本來非神非魔。古老は、之を教へて、「神魔同凡の天御鏡」なるぞと云はれたのである。過去を被ひ、また過去を被ひ、被ひ被ひても、人間身天降の時が判らず、天地の判別がつかず、自己本來何物であるかに徹し得ないとすれば、また更に、火之迦具土の神徳を仰ぎて、幽界魔境に入るのである。

その幽界魔境とは、伊邪那美神の黄泉國なので、八種雷の荒び狂ひ、黄泉醜女の亂れ騒げる斯許米伎繁國である。此の國に入るものは、何如なる罪障宿業も焚き盡されて、速佐須良比咩の「ミマモリ」を得るから、此の身此のまま、此の土此のまま、此の時此のまま、一圓光明の妙相妙用を現するので、過去にあらざる將來にあらざる、現在にあらざるの過今來を明らめ得るので、此の土此のまま「鏡の船」で、此の身此のまま「神の身」で、此の時此のまま「神の代」で、「○神・○魔」。是の如くに往き是の如くに來る。

此のやうな被。その被の結果を、延喜式の祝詞には、「高山の末短山の末より、さくなだりに、落ちたぎつ速川の瀬に坐す、瀬織都比咩と云ふ神、大海の原に持ち出でなむ。此く持ち出で往なば、荒鹽の、鹽の八百道の、八鹽路の、潮の八百會に坐す、速開都比咩と云ふ神、持ち可吞みてむ。此く可吞みてば、氣吹戸に坐す、氣吹戸主と云ふ神、根の國、底の國に、氣吹放ちてむ。此く氣吹放ちてば、根の國、底の國に坐す、速佐須良比咩と云ふ神、持ち佐須良比失ひてむ」とて、四段の被を教へ、「今日よりはじめて、天地の在りのことごと、罪と云ふ罪は有らじ」と云へるもの。上天下地唯見る稜威の赫灼たるのみである。

是の如くに往き、是の如くに來る、神魔同凡の火は、東西古典の傳燈で、何處何如なる民族も、古より今に到るまで、仰ぎ來り褒め讃へて止まざる唯一無二盡天盡地の○であるから、○神とも○魔とも呼ぶ。神ならざるの

神で、魔ならざるの魔で、「ヒ」と稱へまつるのほかはない。先師は、稜威會の宣言書に此う書いてある。「いかに其の信仰解釋實行の形式に於て文野高卑の別あればとて、一として邪道のみのもなく、魔法のみのもなく、均しく是れ根本大本體の天照なり、發顯なり。天照發顯としての一大活躍態なり。正邪一道、神魔一體、或は正となり、或は邪となり、或は魔、或は神たりつつあるに過ぎず。奚ぞ矧んや、其の正なるもの未必しも正ならず、其の邪なるもの未必しも邪ならず、魔、魔にあらず、神、神にあらずるものあるに於てをや」と。それから、教典捧讀の注意書には、「夫れ球體に於ける内容の中心は、唯一不二にして絶対無比に候ぞ。内容の中心より表はれたる輪廓の中心は、到る處に存在し居る者に候ぞ。内容に於ける中央の中心は、其の周圍十表に於ける群中心を一貫統一し居る有様を見よ。是れ宇宙の中心が延長して、宇宙と成り、其の宇宙には、分分微微に、中心のあることを證明したものである。中心より出づるものは中心なるからである」と記されてある。さうして、また別に、「零即一」とか、「無經無緯の高玉座」とか白されて、此の「ヒ」を稱へて居る。

此のやうな「ヒ」の結び結びたる人天萬類であるから、善惡美醜是非曲直と、まるで反對なことを思ひもすれば行ひもする。種種様様と數限りも無いことを、肯定もすれば否定もする。一見何とも複雑至極である。

此のやうな中に、其のやうに生活しつつある人天萬類は、常に怒濤狂瀾の有様で、黒風暴雨の状態で、一日一時とても晏如たることを許されない。で、人人は間斷無く神音を稱へつつ、靜寧和平の神國樂園を築くやうに心掛けねばならぬ。

自己として築き成したる神國樂園は、何如に狭くとも小さくとも、國津神輪なので、天津神の詔せのままに、天沼矛の神事に隨順し得たので、聊なりとも神命に應へまつることを得たるもので、「産土神」と祀らるるのである。

「敬神」であることは、次ぎの「祓言」に依つて知ることが出来る。

「祓言」
ハラヘコトバ

マキリツドヘルヒトビト クニツチヤマカハ クサモキモ ソラユククモモ ツチクグルムシモ アメツチノアリノコトゴト ケフノハラヘノミマツリニ オノモオノモガ
参集 閑留 人人。 国土山河。 草木。 空行雲毛。 地潜虫毛。 天地乃在乃尽。 今日乃祓乃御祭爾。 各自各自我。
アヤマテオカシケム クサグサノトガトイフトガ ツミトイフツミノ アカトケガレトヨ ハラヘヤラヘキヨメタマフ カミノカミワザ カミコトタマヲ ツツシミカシコミヲロガミマセ
過 犯計牟。 雑雑乃尤云尤。 罪云罪乃。 垢斗穢斗乎。 祓却閑清給布。 神乃御惠。 神言靈乎。 敬美畏美拜美坐勢
斗マラス。 白須。 自分意識が宇宙の側にある状態から始まる。

伊宇袁衣耶。
イウエンイ

宇斗乃宮。 宮斯呂築成住我乎。 神乃我叙斗。 神知須邇邇。 神乃神輪叙晃耀赫灼矣。
テルニ テリタル

阿知米。

阿知米。 自分意識が無宇宙の側にあるものとして始まる。

阿宇袁衣耶。
アウエンイ

如此久失氏婆。 人天万類尽天尽地。 今日以降。 罪止云布罪波不在止。 祓却給事乃尊乎。 恐美惶美且。 奉
ミマツリ キヤマヒマツリ マツリマツルトマラシマツル アマテラスオホミカミ カムロギノミコト カムロミノミコト タケハヤスサノジノミコト オホミナハタタヘマツリテ アメノ
拜。 奉感謝。 奉祭止奉白留。 天照大御神。 神漏岐命。 神漏美命。 建速須佐之男命止。 大御名波奉称且。 天
ミオヤアメノヅルヒノアマノサギリクニユヅルヒノクニノサギリノミコト カシコシ
祖天讓日天狭霧国禪日国狭霧尊。 畏。」

五 三つの小分け(断片)に折って、
六 剣とは無関係な「瓊の音も玲瓏と」という
形容があるのは、後の文
に引かれた不用意の挿入
であろう。

2 天の安の河の 誓約

七 書紀には「天渟名

(アマノ)井」、別名「去来之真名(マザノ)井」とある。

名義未詳。井は用水を汲む所の意で、この井は
安の河の中の井と見るのが穏やかであろう。

八 振りには接頭語、滌ぐは洗い清める意。

九 書紀には「皓然咀嚼」とある。「さ」は接頭
語、噛みに噛んでと語を重ねて動作を強めた表
現。

一〇 吐き出す息吹の霧の意。雄略紀には「呼吸
氣息(イハツ)、似於朝霧。」とある。

一一 書紀には「田霧姫命」とある。霧のキは乙
類の仮名であり、紀も乙類であるから、霧に因
んだ神名であろう。多(田)は接頭語か。

一二 沖の島に坐す女神の意。

一三 書紀には「市杵(ヤチ)島姫」とある。イチキ
はイツキ(斎き)の転音ではあるまいか。

一四 船の寄る所に坐す女神の意。

一五 書紀には「満津姫」とある。早瀬の女神。

一六 正勝は正しく勝った、吾勝は私は勝った、

勝速は素早く勝ったの意。日は太陽に因んだ名
忍穂は多し穂で豊かに稔った稲穂、耳は尊称で
あろう。

一七 書紀には「天穗日命」とある。これも稲穂
と太陽に因んだ神名であろう。

一八 天つ日、即ち太陽の子の意。根は親愛の意
をあらわす接尾語。

一九 生き生きとした日の子の意。

二〇 熊野は地名。久須毘はクシビ(奇霊)と同義。

答へ白ししく、「各宇氣比て子生まむ。」とまをしき。宇より以下の三字は音を以

故爾に各天安河を中に置きて宇氣布時に、天照大御神、先づ建速須佐之男命

の佩ける十拳劔を乞ひ度して、三段に打ち折りて、奴那登母母由良爾、此の八字

此れに效へ。天の眞名井に振り滌ぎて、佐賀美邇迦美て、佐より下の六字は音を以

つる氣吹の狹霧に成れる神の御名は、多紀理毘賣命。此の神の名は

島比賣命と謂ふ。次に市寸島上比賣命。亦の御名は狹依毘賣命と謂ふ。次に多

岐都比賣命。三柱。此の神の

る八尺の勾瓊の五百津の美須麻流の珠を乞ひ度して、奴那登母母由良爾、天の

眞名井に振り滌ぎて、佐賀美邇迦美て、吹き棄つる氣吹の狹霧に成れる神の御

名は、正勝吾勝勝速日天之忍穂耳命。亦右の御美豆良に纏かせる珠を乞ひ度し

て、佐賀美邇迦美て、吹き棄つる氣吹の狹霧に成れる神の御名は、天之菩卑能

命。菩より下の三字

る氣吹の狹霧に成れる神の御名は、天津日子根命。又左の御手に纏かせる珠を

乞ひ度して、佐賀美邇迦美て、吹き棄つる氣吹の狹霧に成れる神の御名は、活

津日子根命。亦右の御手に纏かせる珠を乞ひ度して、佐賀美邇迦美て、吹き棄

つる氣吹の狹霧に成れる神の御名は、熊野久須毘命。久より下の三字

「^{ヒト}直日」も「^{カミノヒト}神直日」も（中略）

「アチメ、アチメ、オオオ」も、無宇宙の側の実在を指して
言う名称である。

そして、無宇宙の側の実在は、常に

宇宙の側にある存在を「資財」として使用する立場
にある。

人間においては、^{ナホヒ}直日が使用する側であり、

^{ミタマ}身魂は使用される側の存在である。

故に「ヒト」としての主体は「^{ナホヒ}直日」であり、

それ故に、ここでは「直日」と書いて「ヒト」と読ませている。

4. 故に、「ふるべゆら、ゆらととふるべ、ぬなとももゆら」は、

全体として「マガツビを救えし、これを無宇宙の零にまで

分解して、次の何らかの素材とする」ためのコトバとなる。

3. 「宇宙化育の秘神葉」^{ヒメカミツガ}を表現したコトバが
(ス)とカタメナス) 「ぬなとももゆら」

2. このマガツビを、
調伏済度救えする
神言カミコトバ

「ふるべゆら
ゆらととふるべ」

1. マガツビ マガゴト
禍津毘の禍言

「ふるべゆら」

マガツビをこれ自体と
指す用語か？

ナホヒ 直霊 と くうれい 空零

① 根本資料

組み合わせる

→ 構造体 ②

無
宇
宙

(ワレ)
ナホヒ
直霊
ヒ
(零)

ムスビムスビ
産霊産魂

ヒノカミ

日神 (アマテラス)
(宇宙の中心)

根本魂
(箇体の中心)

ナホヒ
直日

タマノヲフ
トの
リユ
カシテ

流出 (イザナミ)

統率 状況 状態と
表現 現象
(アマテラス) ----- (左にモ
スオ
モ
ラ

統率
神習

マガツビ ②

宇

空零
ヒ
(零)

国生み

(イザナギ)

十四島・三十五神

カミ
神に帰順したる妖魔

(上位の身魂・外郭)

死後、解体される。
(ツキヨミ)

アジミタ
サキミタ
調伏

スサノヲ
(スサノヲ)

マガツビノムシ
妖魔群

生前、罪や穢れを祓われる。

(スサノヲ)

(肉体身・など)

マカツビ ①

(ヨモツ
ヒラサカ)

素材領域

宇宙では、ヨモツクニ

(イザナミ)

箇体領域

宇宙では、ナカツクニ

(イザナギ)

ミツガキ
瑞垣

宙

ナホビの妙用

(4/10)

主体	別天神、神なござるの神、神魔同凡のカミ (別名、大禍津日) オホマガツヒ
↓	
その作用	(実際には、多数ある作用力のうちの一つ) 直霊の妙用、マガツヒ (神に帰順した禍津毘) の活用。 ナホビ マガツヒ
	ヒ 「零」なる霊
	ニギミタマ
第一段階	1. これが、 ^{ナホビ} 直日(中心)の統率のままにへと成る。 ↓ 妖魔群団身 (中心の統率に従っているのだから、 クシミタマ サキミタマ これは「神に帰順したマガツヒ」である。
第二段階	2. これが、妖魔軍として (妖魔のままに) ～を調伏済度救出する。 ↓ 他の妖魔 (まだ神に帰順していないマガツヒ) マミタマ アラミタマ
└→	こうした二段階の妙用によって、 太平嘉悦の樂土(神国)が築成される。

2020.9.1.

ナホビ

直霊

無宇宙にある素材としての零

(ヒ)の段階にあるものまで含めて言う。

ナホビ

直霊

ナホビ

直霊

の神 本来の神

「素材としての直霊」とは、区別される。

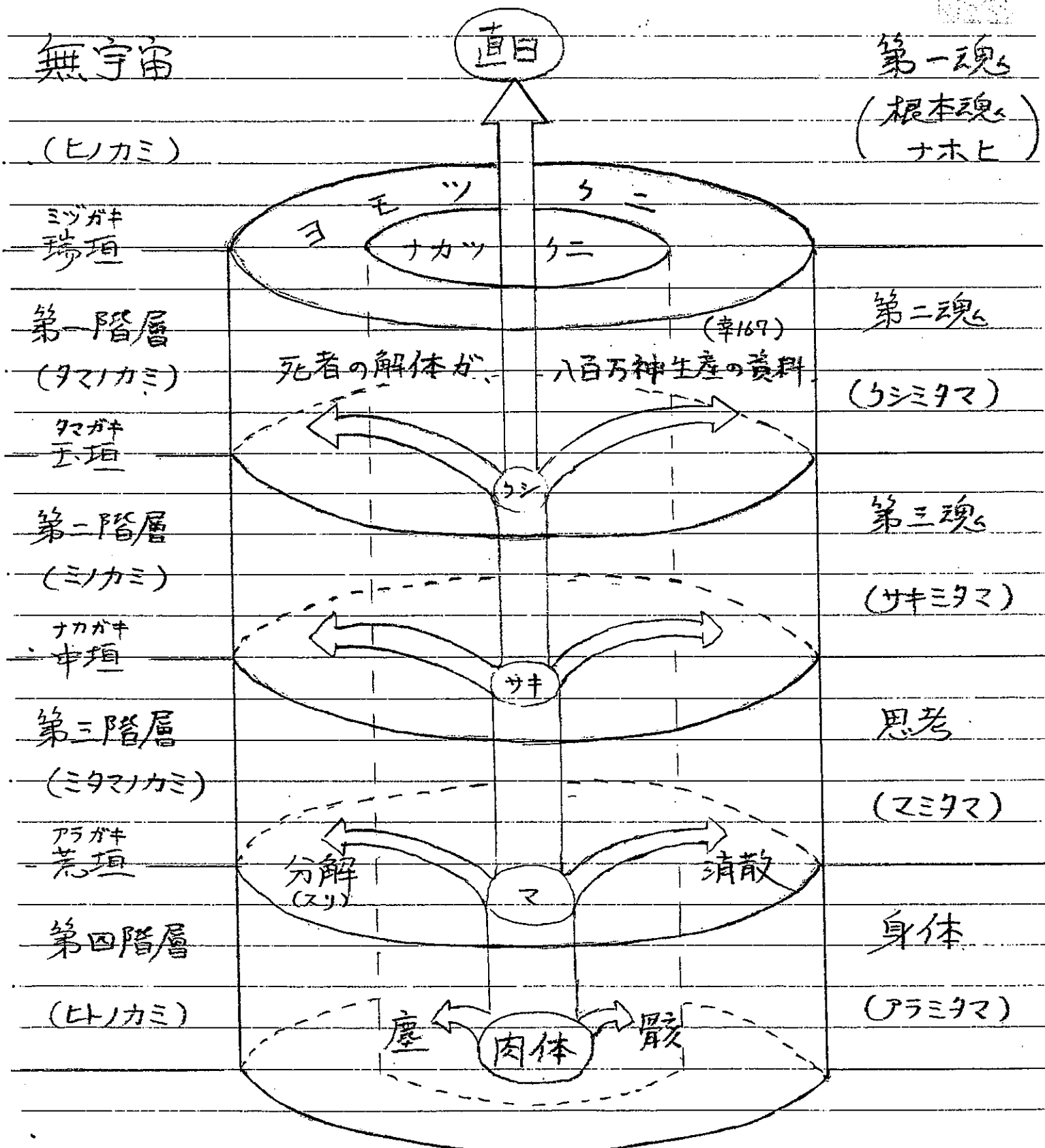
普通は (ワ)の段階にあるアマツカミである。

稲津日神

「これ自身がマガツヒである神」ではなく、

「マガツヒを統率するところのヒノカミ」のこと。

はたらき



「カミ」と「ミコト」の相違

(文章55頁の図表と比較対照のこと)
77頁(八)

「カミ」		「ミコト」	
カミヨ 神界	カミ 神	カミ 神	本体としての ミコト
顕 異 神 域 (天) ↑ 地表面 ↓ 幽 界 魔 境 (地 下)	カミ	カミ 魂の神	作 用 と し て の ミ コ ト
	カミ	カミ 魂の神	
	カミ	カミ 魂の神	
	カミ	カミ 魂の神	
	カミ	カミ 魂の神	
	カミ	カミ 魂の神	
	カミ	カミ 魂の神	
	カミ	カミ 魂の神	
	カミ	カミ 魂の神	
	カミ	カミ 魂の神	
	カミ	カミ 魂の神	
カミヨ 神界		カミ 神	本体としての ミコト

最上段と最下段は、実は同一の領域(宇宙の外)である。

この図表では、あえて「別天神」と「天神」の区別はしなかったが、詰まること、神域と魔境は、宇宙(宇宙全体)を大きく二分する概念であると考えて良かろう。

矢印の「結ぶ/燃える」は、表裏一体であり、すべての階層でそれぞれに起きている。

参考図

図表4 「ミコト」と「ミコト」の相違

32 4

「高天原」と「根の国・底の国」

(文章56頁の図表6と比較対照のこと)
ファイル(八)

	無宇宙	本来の意味での「高天原」	ミツガキ 瑞垣
ウ 顕	第一階層	第一階層の高天原	
ツ 界	第二〜	スメミミ ミツ ノ ミアラカ 皇孫の美頭乃御舎 (幸.84頁より)	ツマガキ 玉垣
シ 神	第三〜		ナカガキ 中垣
ク 神域	第四〜	未来、250頁で言う 「人類世界」	アラガキ 荒垣
ニ 域	第四〜		ヨモノ ヒラサカ 黄泉比良坂
↑ ヨモツ 地表面	第三〜		アラガキ 荒垣
↓ ヒラサカ	第二〜	古事記では 「根の国」(根の堅州国)	ナカガキ 中垣
ヨ 幽	第一〜	「底の国」	ツマガキ 玉垣
モ 界			
ツ 魔			ミツガキ 瑞垣
ク 魔境			
ニ 境			
↓ 地底			
	無宇宙	本来の意味での「根の国・底の国」	

最上段と最下段は、実は同一の領域(宇宙の外)である。
この図表では、あえて「別天神」と「天神」の区別はしなかったが、詰まるところ、「神域」と「魔境」は四界(宇宙全体)を大きく二分する概念であると考えて良いたろう。

「アキメ」とは「アマノミナカヌシノオホミカミ」の「妙境」のこと

祭祀答問録(三)

多田雄三

「ミソギが活物であれば祭祀も活物でありませう。若し然なりとすれば、活物なる所以、及、活動の状態。」

「此の「マ」と彼の「マ」とが抱合合体して新しき體を築く。それだから、被禊と呼ぶも、祭祀と名づくるも共に等しく活物であり、それが直に活動の状態で、破壊しては建設し、建設しては破壊する。生まれては死に、死にてはまた生まれる。則、徹頭徹尾活動で、分秒の間と雖も止むことは無い。此の活動は、生死を超越して無始無終に無際限に活潑潑地に生死流転を展開して居る。然して、その到り着いたところは、大平等海なる「タカマノハラ」である。」

問 祭祀の教は單なる倫理や道德ではないと思はれます。そこには救済があり、久遠の生命があるものと考へます。

答 人の道は斯くあるべしと標識を立てたのが倫理であり道德であるとするれば、それを超えて、つまり、時間と空間との限界を超越して、無始無終に無際限に流行流転する神律に随順して行はれるのが「マツリ」である。故に、その行事は必や、久遠の生命に由るのであり、その結果は必や、彼岸に到達するのである。彼岸とは「タカマノハラ」で、それを圖に示せば○である。此の○は太平洋海だから固より久遠である。生死を超えたる「イノチ」である。之レを「アマノミナカヌシノオホミカミ」と称へまつる。

問 「原始反終」の語は祭祀を教へものでありませうか。

答 之れは易經の語。

然として「隣裡脚下に在り。出でては入り往きては返る。天津金木の太歳通たる○象を悟證すべきである。經も無く緯も無く、始もなく終もなき妙境である。「アキメ」と呼び、「アマノミナカヌシノオホミカミ」と称へまつる。

國史を讀むは郷土史を讀むよりも迂遠にして、外國歴史を讀むは更に更に迂遠なり。

然れども、世道人心を指導教養せんと欲せば、家庭史を讀ましめよ。郷土史を讀ましめよ。國民史を讀ましめよ。國史史を讀ましめよ。

人間歴史を讀めば人間行路は知らるるなり。

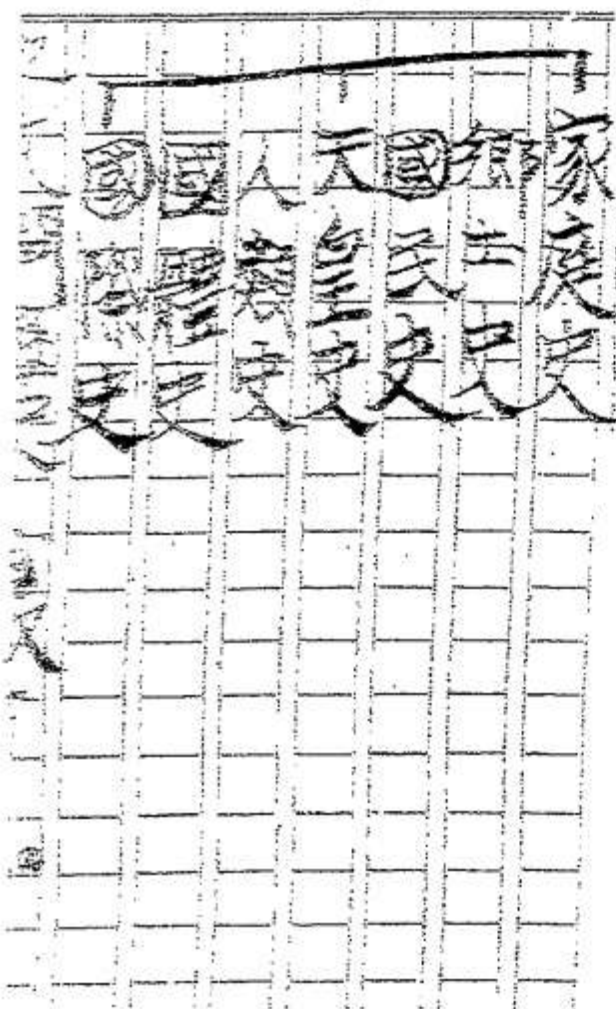
人間行路を知ること、人間の目的と生活と生死とを知ることにして、過去を知りて、將來と現在を知ることなれば、人と

しての基準を知らるるなり。

人としての基準を知れば行止進退に迷ふこと無く、惑ふこと無く、一國昭昭として八面玲瓏として、水晶球裡に坐するが如くなり。

故に名づけて白玉なり、皇土と稱へまつれる天皇なり。アチメオオオとは稱するなり。

(ここにその「之レ人間歴史ノ目次ナリ。」が入ります)以上。



多田雄三先生の筆蹟

古き人を知る
水晶球に
ついで

る。之れを、

人の世では「聖」と呼ぶ。則、「カミ」である、我の内に拝む神であると共に、内外不二に拝みまつる「天皇」にてまします。

聖 寿 無 窮。

之れは單なる讃へ辞でも祝ひ詞でも希望の詞と云ふのみでもない。まことに宇宙の事実で真理なのである。太古以来、その聖なる人類は此の事実を明らめ得て、此の真理の上に國を建てたので、それは「神聖國脉」であつた。

その國は穢れ無ければとて「土」と書き「穢土」と區別したのは注意深き支那文字の成立である。形に書けば○である。或は□とも描く。之れを日本語ではアマと呼ぶ。空なのである。「天」であり、「海」であり、「女」である。

「ア」は発き発いて、果て無く限りの無いのであり、「マ」は円満具足であるから、「アマ」とは大宇宙の義で、都べてのものの産出者で、祖である。則、母胎で空界で零境である。之れを「イへ」と呼ぶ。

此の○には不斷起滅の火が有る。その火の燃ゆるを見て、○の中に一点を点ず。則、○である。「いへのあるじ」で「光」である。「不斷起滅の火」であるから即ち「一点不滅の火」である。

一点不滅の火は、則、無尽無量の水で、それがそのまま無際無涯の身であり、身も無く境地も無い心である。それは身でもなく水でもなく火でもなく心でも無いところの○であるからとて、古老は、

一二三四五六七八九十と称へて、円満具足の箇躰だと讚美したのである。

秘稿『日本天皇国』のまとめ

「コトアマツカミの領域」と「アマツカミの領域」とを二つ合わせて「高天原^{タカマノハラ}」と云う。

両者はともに「無宇宙」だが、「コトアマツカミの領域」は、「宇宙」の存在を前提としていない本来の意味での「無宇宙そのもの」であり、一方、「アマツカミの領域」とは、「宇宙」の存在を前提とした上での、それに相対する領域^{あいたい}としての、より限定された意味での「無宇宙」である。

万葉集の用語としては、前者を「莫囂圓^{バクガウエン}」と、後者を「莫囂圓隣^{バクガウエンリン}」と称する。

神道の用語としては、前者は「火神宮^{ひのかみのかみみや}」であり、後者は「天津神宮^{あまつかみのかみみや}」である。

また、場所によっては、前者を「アマ」と呼び、後者を「アメ」と呼ぶことも可能だろう。

タカマノハラ ともに高天原

コトアマツカミの領域	アマツカミの領域
バクガウエン 莫囂圓 ひのかみ 火神の神宮 かみみや ヒ 国無きの日 カガミ (国を産出するの祖) 大宇宙の大中心 天照皇大御神 (ヒノカミ 火神) 極大極小 (アマ)	バクガウエンリン 莫囂圓隣 あまつかみのみや 天津神宮 ヒの国 ミカガミ (カガミノフネ) 宇宙の中心 (人間身では根本魂直日) 天照大御神 (ヒノカミ 日神) 最大最小 (アメ、天)
「日本民族発祥の神界」も 「日本天皇の祖神」も、実は、 アマツカミ (伊邪那岐命) ではなく コトアマツカミ (天照皇大御神) なのだ、という意味	アマツイハサカ 天津盤境 アマツクニ 天国 アマツクニタマ 天国魂 ムスビ 産霊の神 カミ 皇産霊 ミムスビ 有限の (中での) 無限なる世界 万世一系の世界→十二神界 (イザナギ) ヒノワカミヤ (ヤマト)

以上、秘稿「日本天皇国」より抜粋

教愛寮に

於ける講話

多田雄二

神と人

神を支那文字として解く時は前に述べたるが如く天上主宰・靈異・奇怪・妖魔・等の意義を有するが故に、日本語としてはミコト・カミ・マガツビ等の一角片鱗を意味するか、或は其の一部を現はし、亦是幾多に分割して交錯したるが如くにして単純に一語一語を充当すること能はざるなり。

従つて神と人に対する時、極めて複雑なる關係にして多岐多端に涉らざるを得ず。

先づ天上主宰としての神と人との關係より説きはじめて順次完備せしめんか。

一、天帝と人

天神地祇と称する天神の文字を借りて日本の古典は天津神の義に充當て用ゐたれども、天津神とは極第極小の比が築き成したる最大最小の點なる莫量圓隣にして直日・大直日・三十六神

界なれば支那人用ゐるところの天神の義にはあらざるなり。

天神とは天上主宰の意にして天帝と云ふに等しく、周禮に掌建邦天神人鬼地示之禮と記載したるところ、天地邦土人間鬼畜等と相對したる名称なり。

相對したりと雖、對等の意にあらずして至大なる權力威嚴なりとの意なれば、相對して絶対なる主宰者なり、主權者なりとの義なり。

今時、日本國體明徴運動と稱して朝野翫翫たる声明文に所云の「統治權の主體が天皇ならずして國家なりとするいはゆる機關説の如きは、我が金甌無缺の國體の本義を衍るものにして吾人の信念と絶対と相容れざる所なり（陸海軍大臣共同訓示）。皇國統治權の主體は天皇なり、これ我が國體の精華にして吾人の絶対信念なり（帝國在郷軍人大会の決意宣明）。」等に稱する絶対の權力を有する主宰者なりとの意なり。

此の意味は猶太教に神は土を以つて神の相に似せて人を造りたまへりと云へる神と等しく、生殺与奪の全權は神の司るところなり、天神の支配するところなりとの觀念なり。

人は唯戰戰兢兢として其の意に悖らざらんとするか、愛撫擁護を得んと願ふか、甚しきに至りては賄賂を贈り歡心を求むるにも到るので、其の結果は神祇之犧牲性用と書經に載せたる如く、現今神社佛閣をはじめ宗教的団体に於て供物と云ひ賽銭と呼ぶところの行為と流れたるものなり。

天上主宰の神に対する人の行為は結局其の暴威を和げ非異を止め愛慰擁護を得んと願ひ欲求するに至るべく、所謂暴君に対する恐怖心と化るべき畏あり。野蠻未開の土人が恐怖の心より雷鳴電光を拝し、風伯水神と祀り、火嶽谷神と恐れたる等しく神佛の懲罰を云ふものは現今都鄙上下の風を成せるなり。神社の社格高卑と云ひ、祭神の位階勲等と称することも亦嘗て行はれたるところなり。之れを祀るの厚薄親疎か高下優劣か蓋奇怪事なり。

一類有り説をなして曰はく、物皆階級あり、草木の構成を見るも節無きはなし、細胞組織にも大小厚薄中外本末有らざるはなし、顕界と幽冥とを論ぜず、階級無きはなしと。果して然るか。

数学家は云はく、最大最小の数と。科学者は云はく、陰極は陽極なりと。見よ。極大極小の比を。又思へ。最大最小の天を隔つること無く限ること無くして宇宙を構成せるは最大最小の天なり、日本民族伝承するところの天津神にして又国津神なり。

宇宙ならざるの宇宙は極大極小の一にして一切なれば、日本民族は天祖と伝へ天命と教へ命と稱し血統と呼びて稜威なる道なり。上下高卑はおろか遠近親疎を立つることなく時間を撤し空間を捨てて一圓昭昭たり一音琅琅たり。

故に天祖と人との關係は極大極小の比たる高天原に神集ひ集ひ来ましし皇睦みますなる重重無尽の圓光としての天津神國津神たる最大最小の天界（たかまのはら）を築きたる直日を根本魂として（なほひとたふるたましひと）してのみたまをもと）天界地底神魔純雜の別なく物資たる食料を吸収摂取しつつ箇体を拡大したる人体なると共に、其の食料となしたる一切の資料をば常時不斷に整理して正誠善美なる箇体となさざるべからざるにあり。

根本魂は直日としての天津神
國津神なれども吸収摂取したる
資料は正邪曲直美醜善惡の混淆
せるものなれば統一し整理する
ことを怠る時は醜惡邪曲を増大
せしめて直日の威令は行はれざ
るに到る。

資料は複雑なりと雖、整理し
統一する時は直日の光を仰ぎて
直日の如く正義を持し、善美を
擧げて邪曲醜惡を排撃せざれば
止まず。遂に卒に此の土をして
直日の國たる高天原と成すに至
る。

仰げば神にして背けば魔（ま
かつび）にして神魔本来別事無
きなれば神言靈（かみのことた
ま）に道（みち）と呼び、命（ま
いのち）と称する所以なり。

實なり身なり稔なり充塞なる
ミと、血なり散なり別るるなる
と共に連るなるチとの二音合成
の語を道（みち）と呼ぶは生滅
起伏の義にして、命（いのち）
の三音合成が陰陽開閉離合起滅
の義なると等しき宇宙と無宇宙
との事実にして真理なるなり。
之れを命（みこと）と称ふるは
身にして實にして稔にして高秀
隆起のミと、兎にして簡体なる
こと、止まり留むるなるトとの
三音合成なる極大との義なるな

り。極大を教へて極小を知らし
めたる神言靈なれば、天祖が出
没高卑生死遷流して止まざる音
義にて教へられたると等しきな
り。

現身としての人が、天祖たる
命（このよにいけるみがあめの
みおやたるかみ）と成るの方図
は解體の一途あるのみにして、
大死と呼び、涅槃と稱し、解脱
と教へ来れるところなるが、死
後と雖、解體して極小の比と化
すの他は無きなり。唯、自ら成
すの他より成さしめらるるとの
別あるのみなり。現身のままに
ては何如にするも他人他物を解
脱せしむること能はず。他人の
力を借ることは有りと自己の
努力に依るにあらざれば決して
解脱し得るものにあらず、大悟
し得るものにあらず、涅槃に入
ること能はず、入定すること能
はずとなす。

されど現身の死するや、肉体
は固より靈念思考の一切は分散
又分散して底止するところなか
らんとす。其の故は中心を失ひ
指導者去りたるが爲に各自各自
に各簡体を築かざれば従来の習
慣よりして各自に安すること能
はず、不安に耐へずして相互に
独立せんと競ふに依るものにし

て地界魔境を現出するに到る。
唯、神人（あきつみかみ）は
生前に高天原を築き靈念思考よ
りはじめて肉身体身全般をも天界
となすべく訓練しあるが故に、
自ら自らを解體して日若宮とな
し天界の神業に従事することを得
るなり。

然らざるは必、分散分裂する
が故に、神人は神命を奉じて之
れが解體を行ずるなり。
妖魔を解體して神國（かみの
その）を築き、天祖としての神
業（かみのかみわざ）を行ずる
を神人の念願（あきつみかみの
ねがひ）となし本懐（のぞみ）
となすなり。

如此にして生死遷流起伏往來
するものを宇宙成壞の事理とな
すなれば、天祖は一（ひ）にし
て、一切（ひ）にして、人類に
して、萬類萬物にして、天魔地
妖にして、神儒佛にして、聖人
賢者にして、愚童狂奴にして、
而して、之れ等を産出すると共に
に死滅せしむると共に産出する
にあらず、死滅せしむるにあら
ざる大宇宙の太中心なる無宇宙
の宇宙にして、無世界の世界に
して、無人の人にして、無物の
物にして、日にして、火にして
氷にして、一にして、一切にし

て、靈にして、魂にして、緋に
して、非にして、否にして、無
（ひ）にして、有（ひ）にして
神（ひ）にして、魔（ひ）にし
て、我（ひ）にして、彼（ひ）
にして、正（ひ）にして、邪（ひ）
（ひ）にして、美（ひ）にして、
醜（ひ）にして、善（ひ）にし
て、惡（ひ）にして、天（ひ）
にして、地（ひ）にして、陰（ひ）
（ひ）にして、陽（ひ）にして、男
（ひ）にして、女（ひ）にして
雌（ひ）にして、雄（ひ）にし
て、凹（ひ）にして、凸（ひ）
にして、剛（ひ）にして、柔（ひ）
（ひ）にして、大日靈貴尊にてま
しますなり。故に天祖とは天照
大御神にして大日靈貴尊にてま
しますなりと古典に載せ、古老
の傳ふところなるなり。

以上 昭和十年十月一日

二、妖魔と人

无方の神は変幻出没して地界
魔境を築き鬼畜妖類を産出す。
支那の古典は夏道尊命事鬼敬
神而遠之・神无方・與神物以前
民用・神明其德夫・利用出入民
威用之謂之神・古之聰明叡知神
武而不殺者夫・窮神知化德之盛
也・幽贊於神明而生蓍・惟神是

日本ノ古典ニハ此ノ國ヲ莫囿。國隣下記載シテあめト傳

ヘテリ。さやぎなきくにトノ義ナレバ器ギト莫人ギ一圓光

裡ニ築キ成シタル國ナリ天國魂ナリトノ義ニシテ如浮胎而

久羅下那洲多院用帶琉一トスヘルハ器品ナリ。其ノ莫

囿ナルハ修理國成是多院用帶琉之國一意ニシテ

「國」トハ一圓相ナリ一圓光ナリトノ義スルバ久羅下那

洲多院用帶琉國土ヲ修理國成ニシテハ圓光ノ之ヲ據タル

鏡面ノ如クナリ。白歎「羅摩」等一借字ニシテハかが

みナリナリ。大圓鏡ト佛教ニ云フトクロノ虚空藏ナリ空

ナリ無ナリ人間身ニテハ見聞覺知スルコト能ハサル窮極

ナリ窮極トモ知ラレサル極ナリ宇宙無ギナリ。此ノ宇宙

無ギ大圓鏡・虚空藏・かがみ・一圓光・一圓相・莫

囿國が宇宙ヲ築成シタル時ヲ大圓鏡智・虚空藏

ニ

経緯無クシテ経緯ヲ現ズルハ現象世界ノ主體ニシテ
 現象世界ノ中心ニシテ現象世界モシテ現象世界タル人
 間身心ノ知り得タル窮極ナリ。窮極ナルが故ニ
 シテ一切ニシテ最小ニシテ最大ニシテ箇體ハ宇宙トシテ
 ノ在ル限リナリ。

在ル限リナレバ窮數ニシテ滿數ニシテ最小ノ數ニシテ最大
 ノ數ニシテ最大最小ノ數ニシテ経緯ヲ認識シタル限リ無
 キ世界ナリ。故ニ有限ノ無限ナリ。

有ク現限ノ無限ナル世界ヲ萬世一系ノ世界ト呼ブベ
 象世界ヲ一貫シテ不變易ナリトノ義ナリ。

開華落葉榮枯盛衰生死遷流レツツ開華
 落葉榮枯盛衰モ生死遷流モ起伏成壞モ

無キノ國ナリ

之レヲ莫大國隣ニ

稱ヘテ大日本帝國ナル



高天原ノ神國ナリトスナリ



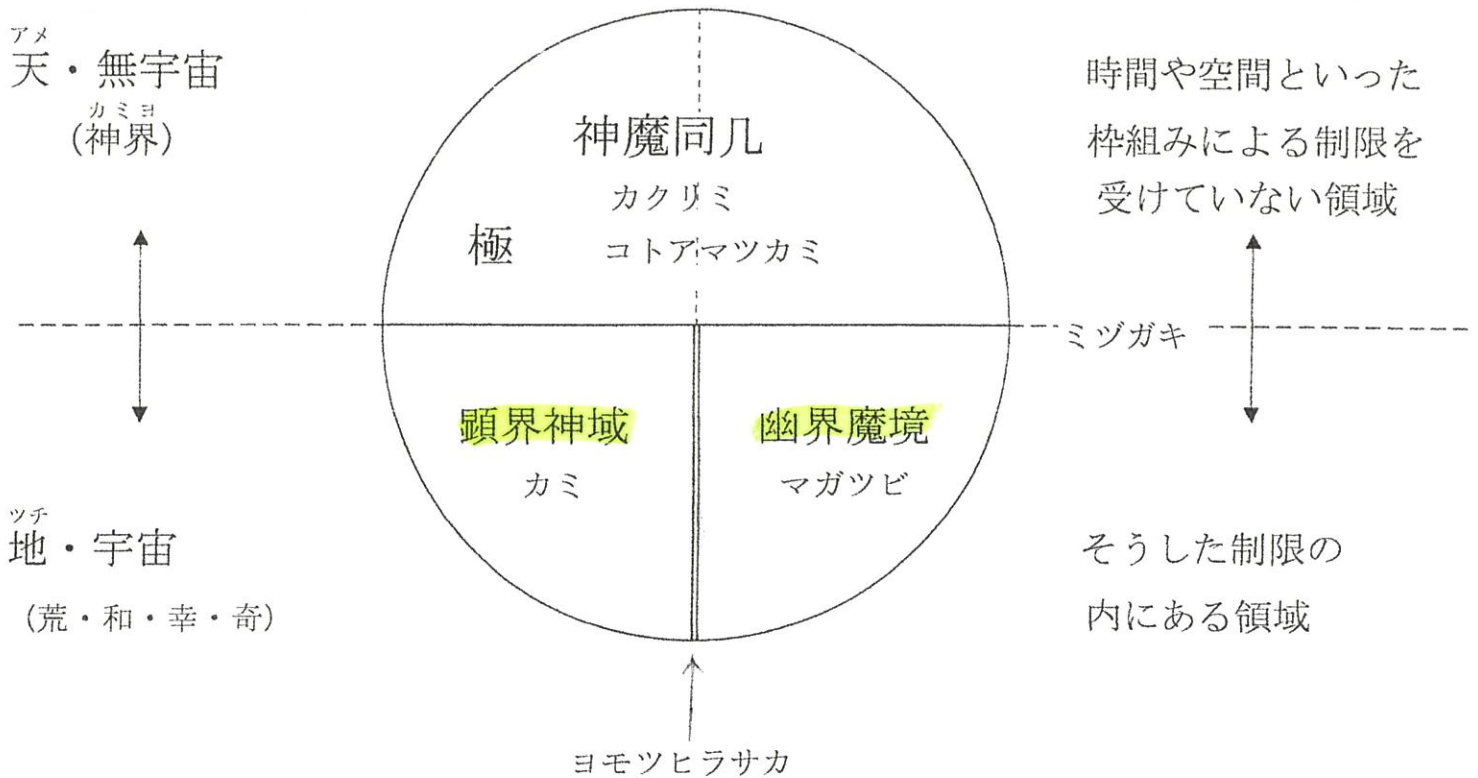
人類産出ノ根元ヲナストコハ極ニシテ經ノ極ニシテ緯ノ極ニシ
テ經即緯緯即經ナル一點ナレハ經モ無ク緯モ無ク現象世界
ヲ成サザルナリ。故ニ無世界ノ世界ニシテ現象世界無キ
ノ現象世界ナリ人間身トシテハ見聞スル機能ヲ認メ
得ザル世界ナリ。無ノ有ナリト呼ブ外無キナリ。

無ヲ論ズルハ人類ノ基準カ人類自身
人類産出ノ根元ヲ知ラザル
ガ爲ナリ

ニシテ

アマツチ
天地概略図

アメとツチを合せて、大宇宙と称する



この二項対立の図式は地^{ツチ}の側でのみ有効

アメ
天の側には及ばない

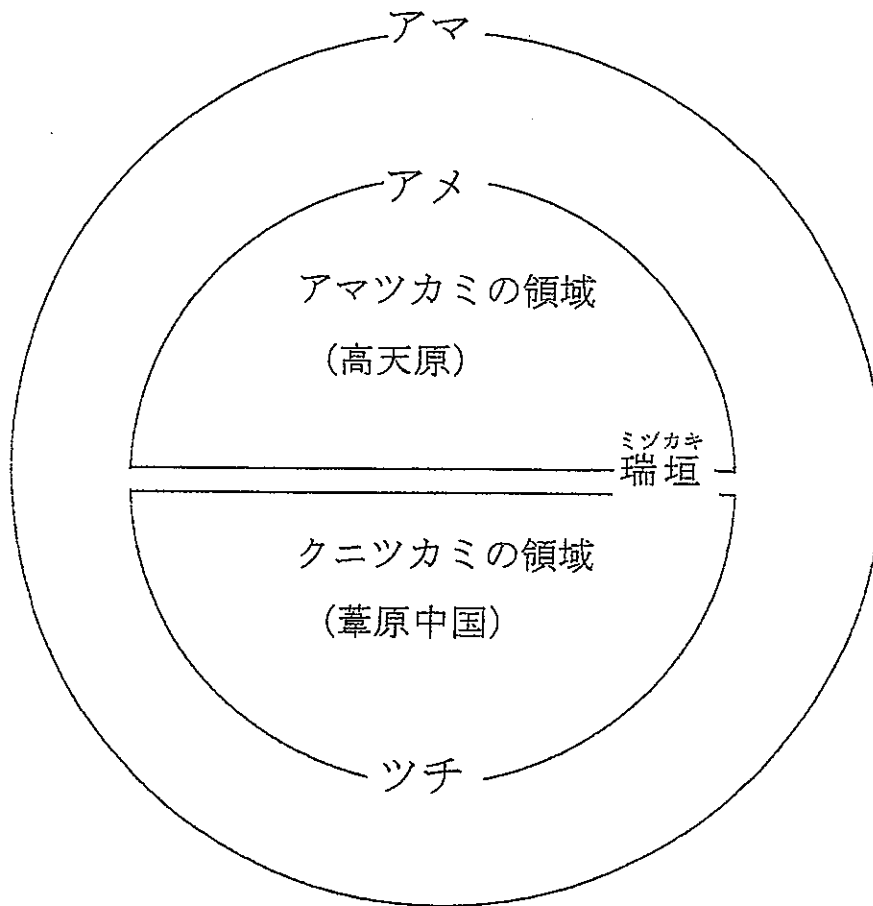
アメ
天とは、人間から無宇宙を見て「ア」と驚嘆する、

という時の「ア」の領域

アメ
天とは、物理的に言えば、宇宙創世以前の領域

天地概略図 第二版 (あくまでも概略)

コトアマツカミの領域 (無宇宙) -----	^{アマノイハヤ} (天石屋)	} 全部あわせて 「アマ」
アマツカミの領域 (無宇宙) -----	天アメ	
クニツカミの領域 (宇宙) -----	地ツチ	

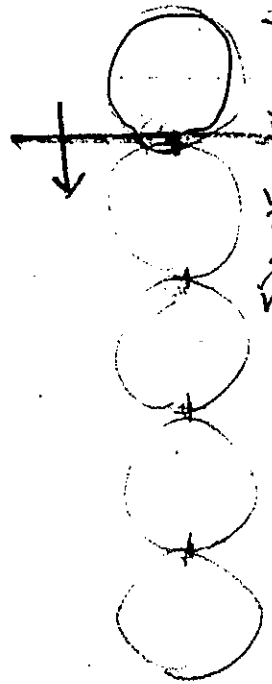


○「^{タカマノハラ}高天原」は狭義では「アマツカミの領域」を指す。

○現実には、「クニツカミの領域」は、顕界神域 (カミの領域、狭義の^{ナカツクニ}中津国) と幽界魔境 (マガツビの領域、^{ヨモツクニ}黄泉国) とに分かれている。

(第一版を参照)

無宇宙
宇宙



無宇宙 — 神魔同凡

㊦ が結び解びて成り成る (末104)

宇宙 — 神魔割判 (幸113)

カミ 神も 魔も 経と 緯のある存在

- (神 — 伊邪那岐神の神界 (顕界神域)
 - (魔 — 伊邪那美神の魔境 (幽界魔境)
- (末104)

「無宇宙」と「宇宙」と

「極大極小」と「最大最小」について、まとめ。

「布」および「教愛寮における講話」より。

無
宇
宙

極大極小の点 マト (莫囂圓、つまり極)、零、



「築き成す」

→ 別天神、天祖、校威なる道、

イクムスヒ、タルムスヒ、タマツメムスヒ、

最大最小の点

アメ (莫囂圓隣、つまり極の一步手前)



「構成せる」

→ 天津神、三十六神界、

イクタマ、タルタマ、タマトマルタマ、

宇宙 (時空)

ツチ、

→ 国津神

ミヅガキ
瑞垣

宇
宙

図表2: 莫囿圓と莫囿圓隣

莫囿圓	コトアマツカミの領域	莫囿圓隣	アマツカミの領域
・ 人間身にては見聞^{あた}覚知すること 能はざる窮極 (故に、^{もろが} 拝みまつることを得ざる神)		・ 人身の知り得たる窮極 (故に、^{もろが} まだしも 拝み まつることのできる神)	
・ 天照大御神出生の高天原 (祖神、天照皇大御神)		・ 築き成したる高天原 (主神、天照大御神)	
・ 大宇宙の大中心 (「宇宙の中心」 にとっての中心)		・ 宇宙の中心 (大中心が大中心のままに その妙用を^{あろ} 顕わした結果)	

両者はともに 高天原であり、総じて無宇宙である。

1. 天之御中主神
2. 高御産巢日神
3. 神産巢日神
4. 宇摩志阿斯訶備比古遲神
5. 天之常立神
6. 国之常立神
7. 豊雲野神

コトアマツカミの領域

莫器圓

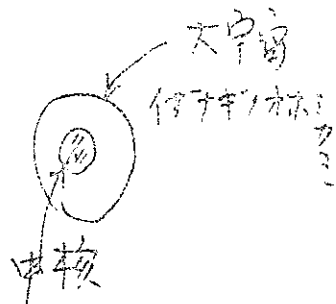
同じオホミカミでも、「スリカクナス」の機能に着目するとこの神はイザナギノオホミカミとなる
(コトアマツカミとしても、アマツカミとしても、クニツカミとしても機能)

8. 宇比遲邇神
9. 妹須比智邇神
10. 角杵神
11. 妹活杵神
12. 意富斗能地神
13. 妹意富斗乃辨神
14. 淤母陀琉神
15. 妹阿夜訶志古泥神
16. 伊邪那岐神
17. 伊邪那美神

中核
↓
十柱神
↓
伊邪那岐大御神
↑
伊邪那美神
↑
天神諸命

アマツカミの領域

莫器圓隣



(天)

無宇宙

ハ神はニ神の内容でニ神としてイザナギノオホミカミ

アマツカミをクニツカミにする
コトアマツカミのオホセのこと

アマツカミノオホセ
天神諸命

ミツガキ
瑞垣

古事記では
伊邪那岐命
伊邪那美命
となる

アマツカミであると同時にクニツカミでもある → 命とよぶ

クニツカミの領域

宇宙
クニ
(国)

古典では

「伊邪那岐命伊邪那美命二柱神」と記されているが、
「イザナギイザナミフタハシラノカミ」と奉称されなければならない。

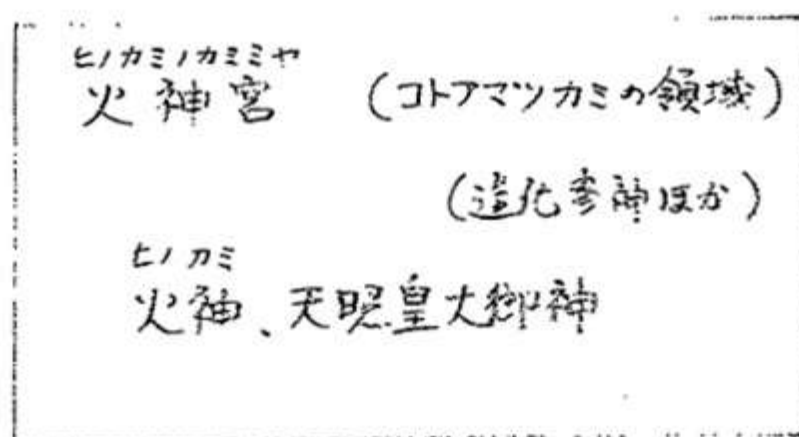
(多田流)

図表1.古事記登場順の神名表

No.			
1	天之御中主神	↑ コ ト ア マ ツ カ ミ ↓	アマノミナカヌシノ オホミカミ は、 こちら側に重点を 置いた神名。
2	高御産巢日神		
3	神産巢日神		
4	宇摩志阿斯訶備比古遲神		
5	天之常立神		
6	国之常立神		
7	豊雲野神		
8	宇比地邇神	↑ ア マ ツ カ ミ ↓	イザナギノオホミカミ は、この十柱神に 重点を置いた神名。
9	須比智邇神		
10	角杵神		
11	治杵神		
12	意富斗能地神		
13	大斗乃辨神		
14	於母陀流神		
15	阿夜訶志古泥神		
16	伊邪那岐神		
17	伊邪那美神		
18	伊邪那岐命	↑ ウ ニ ツ カ ミ ↓	(二柱御祖神)
19	伊邪那美命		
20	大事忍男神		
21	豊宇氣毘売神		No.20~59.の40神は、 「神生み」で生まれた神々。
59			

図表1: 高天原の二神部

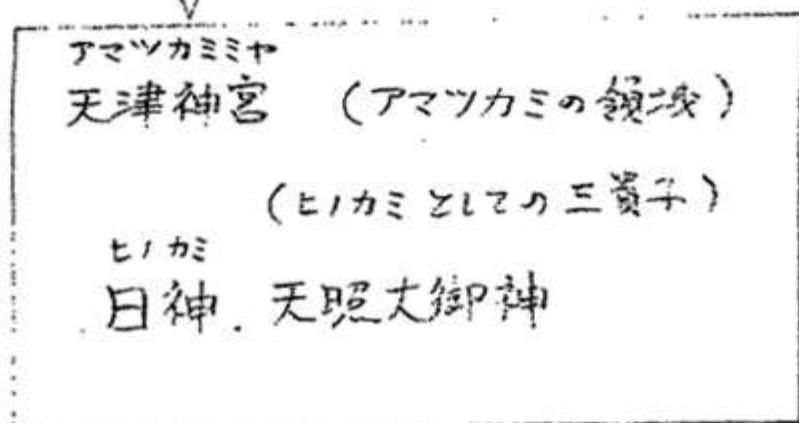
「三神即一身」の二神



バウガウ エン
莫翼圓

大宇宙の大中心
極大極小

産出
ヒノカミ カミヲ
火神の神徳としての
天照皇太御神
(修理固成と見做せば二柱神)



バウガウ エン リン
莫翼圓隣

宇宙の中心
最大最小

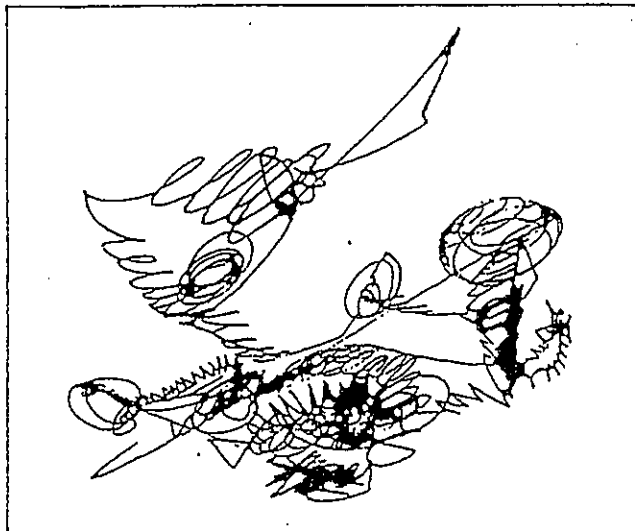
一八尺勾魂・鏡・鍔・雲劍「常世思
金神」一佐久久斯伊須受能宮」と伝
承したるは火神の神宮を知らしめんと
の神意長きことなるべしと拝しまつる
なり。

一變速日・建御雷・建布都・豐布都
暗添加美・闇御津羽・正鹿山津見・添
藤山津見・奥山津見・闇山津見・志藝
山津見・羽山津見・原山津見・戸山津
見・大雷・火雷・黒雷・折雷・若雷・
土雷・鳴雷・伏雷・豫母都志許賣・
意富加牟豆美・伊邪那美・伊邪那美神
黄泉津神・道敷神・道反神・塞坐黄泉
神・衝立船戸・道長乳齒・時置師・
和豆良比能宇斯・道俣・飽昨宇斯・奥
疎・奥津那藝佐昆古・奥津甲斐辨羅・
邊疎・邊津那藝佐昆古・邊津甲斐辨羅
八十禍津日・大禍津日一之れを火神の
神徳となすなれば其の神宮の大要もま
た之れに依りて窺ひまつることを得べ
きなり。

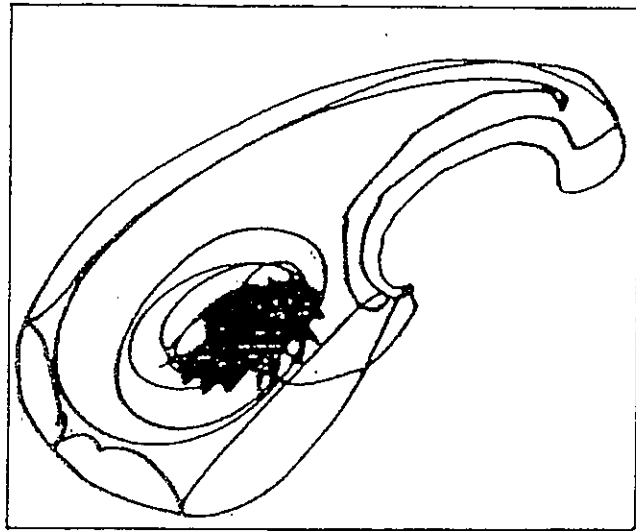
而して火神の神徳とは天照坐皇大御
神にして、大神宮とは天照皇大御神に
して、火神宮を修理司成なすなるは伊
邪那岐命伊邪那美命二柱神にして、其
の火神宮より産出し給へるは天照大御
神にてましますなり。

高皇產靈尊とは天照皇大御神の產靈
の神にてまします高本神の別名にてま
しませども、古典には明瞭なる記載な
く唯、神言靈の然ることを教ふるある
のみなり。

邪惡醜陋の妖魔を調伏し濟度して正
 誠善美の神業神事に従はしむるは、天
 皇の神徳にして日本建國の精神にして
 八尺勾魂やしかのまがたまと教へたる神言靈なり。
かろのこたま

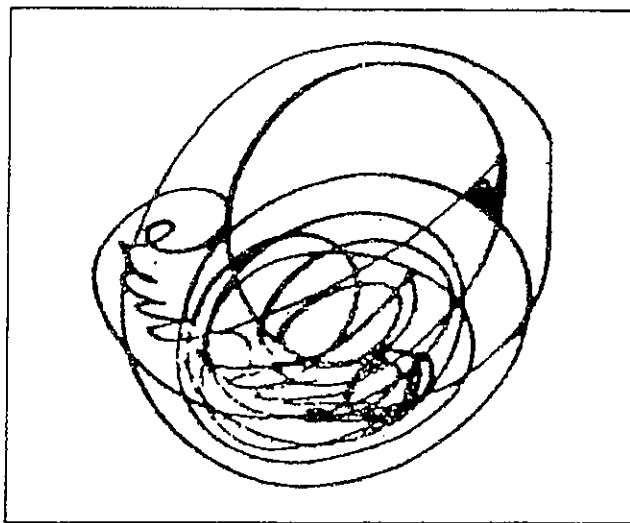


図六



図七

如此の相すがた(図六)を調伏せられたる
 妖魔となす。更に濟度し救出したる時
 は左図(図七)の如くなるべし。
 又更に誘導して天津神宮あまつかのみやに摂入した
 る時は、重重無盡の圓光と化りて晃耀
 赫灼たる五色光なり。之れを平面に描
 く時は左図の如くにして立体に彫刻す
 れば球の六十六重相なり。(図八)



図八

天津神宮たる日若宮より火神の神宮
 に入る時は、一圓相にして一音響にし
 て人間身としては描くべき方圖を知ら
 ず、語るべき言語も無きなれどもとな
 りと云ひ、ヒカリなりと呼びて類推せ
 しむるなり。人若誤り認めて球の如く
 圓の如くなりとなさば相距ること幾千
 萬里のみにあらざるべし。

日本天皇后(二)

多田 雄三

「八尺勾魂・鏡・叢雲劍」「常世思金神」「佐久久斯侶伊須受能宮」と伝承したるは火神の神宮を知らしめんと神慮畏きことなるべしと拜しまつるなり。

「建速日・建御雷・建布都・豐布都・暗添加美・闇御津羽・正鹿山津見・淡路山津見・奥山津見・闇山津見・志藝山津見・羽山津見・原山津見・戸山津見・大雷・火雷・黒雷・折雷・若雷・土雷・鳴雷・伏雷・豫母都志許賣・意富加牟豆美・伊邪那美・伊邪那美神・黄泉津神・道敷神・道反神・塞坐黄泉戸神・衝立船戸・道長乳齒・時置師・和豆良比能宇斯・道俣・飽咋宇斯・奥疎・奥津那藝佐昆古・奥津甲斐辨羅・邊疎・邊津那藝佐昆古・邊津甲斐辨羅・八十禍津日・大禍津日」之れを火神の神徳となすなれば其の神宮の大要もまた之れに依りて窺ひまつることを得べきなり。

而して火神の神徳とは天照坐皇大御神にして、火神宮とは天照皇大御神にして、火神宮を修理固成なすなるは伊邪那岐命伊邪那美命二柱神にして、其

の火神宮より産出し給へるは天照大御神にてましますなり。

天照大御神とたへまつるは天皇にてましますこと上に述べたるが如くなれば、大日本帝國を統治し給ふは天皇にして天照大御神にして伊邪那岐命伊邪那美命二柱神にして、即、大日本帝國に外ならざるなり。

古老は此の義を教へてノリトなりと云へり。

ノリトは法なれば現象世界の主體たる本體世界にして、活用を現する體なると共に活用たる機関なり體にして用にして、體用不二なる原則なり。

此の原則を認めて人間社会を此の原則の如く運用せんとするものに法人なる規定存り。人格と認めたる組織體系にして機関なると共に主體を具備したるなり。

法蔵比丘が成佛して阿彌陀と呼ぶところの佛國土は此の法蔵比丘佛國にして、佛人格なり、中心確立せる人格的佛體なり、宇宙なり、否、寧ろ、人格的宇宙なりと日本佛教者の説くところの佛國土は正に此の法人にして、法の上に建設せられたる社会なるに外ならざるなれば、ノリたる原則を運用せんとはすれども、必しも其の原則の行われ得るや否やを知ること能はざるのみならず、人為なるが為に破綻を来し

語を招ぐことあるべき不完全體なり。神ならざる人の作品なれば時に過誤無きこと能はずと世人の稱するが如きなり。

故に之れ日本國體にあらず、固より天皇にてはましますまぬなり。換言すればノリの上に立てたりと思ふも、ノリのままに運用すと思へるも共に人間身心の靈念思考なれば、ココロにして變転遷流の時ならざるものにしてノリにてはあらざるなり。ノリトたる完全體にあらず、マゴコロたる真実身にあらざ天照大御神にあらず、高皇產靈尊にはあらず。故に大日本帝國にてはあらざるなり天皇にてはましますまぬなり。

高皇產靈尊とは天照皇大御神の產靈の神にてまします高木神の別名にてましますまぬも、古典には明瞭なる記載なく唯、神言靈の然ることを教ふるあるのみなり。

「心心心の中に國ありと人こそは知れ御酒を捧げて。」

古老傳ふところの此のノリトは全音が神言靈にして大日本帝國の義なると共に充當したる支那文字の意味をも含めるなり。全宇宙全身全箇體の統一魂としての神たる曉にして、人の身ながら神となりたる神人なり、神國なり、明津神なり、荒人神なり、現神なり、荒身魂神なり、天皇にてましますなりとの義なれば、大宇宙の大中心が

築き成したる神人なれども人間身が大死し大悟徹底し解脱して涅槃に入り再生し降臨したる曉なり。此の神人ト成るには大宇宙の大中心を中心として出生したる人身ならざるべからざること固よりなり。之れを日本天皇の皇統と稱へまつりて「神皇系図」なり。

神皇系図は古典の記載錯簡多く、之れを讀むも了得すること殆難し。

大宇宙の大中心を中心として出生するには、人身として母胎に宿るに先だちて大宇宙の大中心が天なる高天原を築き、天津神としての命として国津神と天浮橋に立ち、天御柱を廻り合ひ美斗能麻呂波比なしたるなれば神にして神として人間身を築き來れるなり。此の人に於て初めて現身解脱の大死を證し得る直日の人たるなり。直日の人を得ること多きときは此の土をして高天原となすことを得べく、然らざる時は平和嘉悦の國土となすこと能はず。

天皇の稜威を拜戴することを知らざる妖魔軍の跳梁するところと成らざるを得ざるなり。

若又、一國の主權者にして直日人ならざ大宇宙の大中心の築きたる身ならざる時は、國を擧げて焦土を化せしめ民人を驅つて塗炭の苦痛に沈吟せしむるに到るべく、民人に其の人有り難施すべき術無く行はん便を失ふの止む

を得ざるに終るべきなり。

正義は行はれず、善行願られず、美事も笑殺黙過せらるるは上下君民転覆倒置の惨状なり。

「天祖勅日若有葦原中国之敵拒神人而待戰者能為方便誘欺防拒而令治平之而三十二人並防衛供奉焉」天香語山・天鈿女・天太玉・天兒屋・天櫛玉・天道根・天神玉・天櫛戸・天明日・天比古・天御陰・天進日女・天玉櫛彦・天湯津彦・天神魂・天三降・天日神・乳速日・八坂彦・伊佐布魂・伊岐志邇保・活玉・少彦根・事湯彦・八意思兼・表春・下春・月神・天男蘇・天津赤占・咲魂・荒魂。」

冠履転履黑白倒置の世界を整理し、統治するを權と呼ぶ。高天原には用ゐるところ無きなれども人間世界には一日と雖、飲くこと能はざるところなり。於此か、大日本帝国憲法第四條には

左の如く定めさせられたり。

○天皇ハ八國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此の憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ。此の條文を割けば三項となる。

○天皇ハ八國ノ元首ナリ。

○天皇ハ八國ノ統治權ヲ總攬ス。

○天皇ハ憲法ノ條規ニ依リ統治權ヲ行使ス。

統治權とは第一條ニ「統治ス」ト定めさせられし天皇の御活用なれば、此の條文に「總攬ス」とあるは天皇にして、「元首」とあるも天皇にして、「之ヲ行フ」とあるも天皇にして共に天皇の體用を重しせられたるものとなる。(表一)

「高木神取其矢見者血著其矢羽。於是高木神告之此矢者所賜天若比古之矢即示諸神等詔者或天若比古不誤命為射惡神之矢之至者不中天若比古或有邪心者天若比古於此矢麻賀禮云而取其矢自

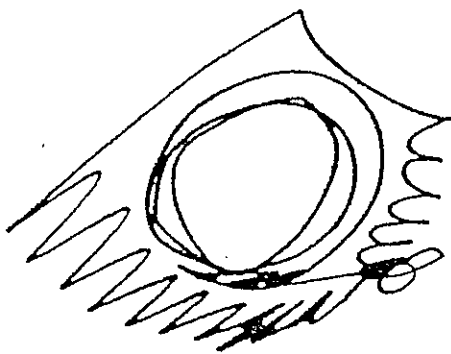
其矢穴衝返下者中天若比古寢胡床之高胸板以死。」

之れを「統治權ヲ總攬」し給ふところの天皇となす神言なり。天照坐皇大御神にして天照皇大御神の神徳たる高木神の神事なり。

此の統治權は天皇より出でて天皇に還るところの活用なること一目瞭然たるなり。

其の數理を云へば七にして三にして二十一にして三十五にして四十九にして七十七にして百九十一なり。

左圖(圖九)は七の妙用の一角を示したるものなれども以て全貌を類推すべきなり。「阿知米」「於於於」と伝へたる天命循環の真理にして實際なり。

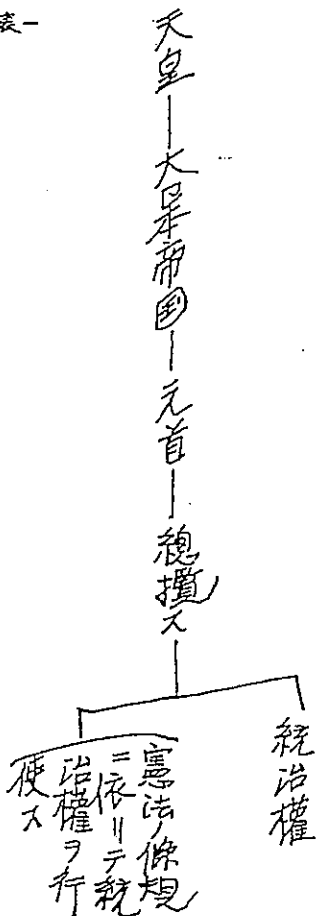


圖九

天皇即位の大嘗祭に阿知米の曲を奏するは、七の妙用を現じて神國築成を神代の神と神人との宇氣比せさせ給ふ神儀行事なりと拜承するところなり。

「權」とは妖魔調伏の活用なれば劔戟杖鋒にして「叢雲劔・石折・根折・石筒男・底筒男・中筒男・上筒男・建速須佐男・奴那登母母由良・多紀里毘賣・奧津嶋比賣・市寸嶋比賣・狹依毘賣・多岐部比賣・八咫勾魂・足名椎・手名椎・櫛名田比賣・湯津爪櫛・八咫遠呂智・八嶋土奴美神・八千矛神・天迦古弓・天波波矢・經津主・建御雷」と記載されたる高木神の神徳なり。則天皇の稜威にして「憲法ノ條規ニ依リテ統治權ヲ行使ス」るものにして、「統治權」に對する時は此の「行使」は機關にして活用にして相對にして小極なれども、「行使」に對する時は「統治權」が機關にして活用にして相對にして小極にして「行使」が主體にして體にして絕對にして太極にして、從つて位置を転還すれば「統治權」が主體にして體にして絕對にして太極にして、共に相對の相對にして相對の絕對にして絕對の相對なれば、絕對にして絕對に非ず相對にして相對に非ず、相對にあらずして絕對にもあらず、絕對にあらずして相對、絕對にあらずして絕對

表一

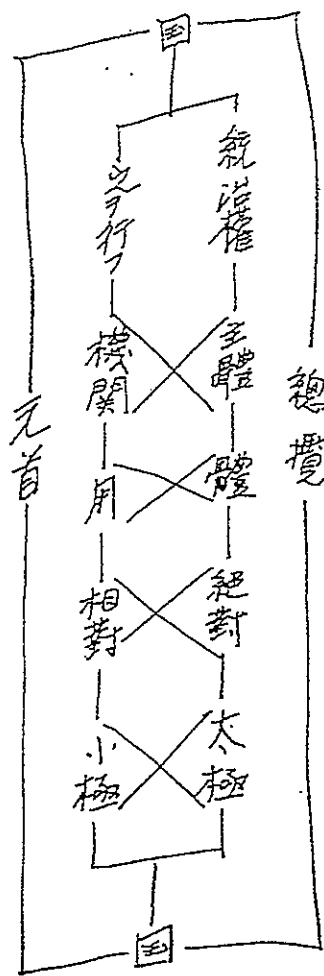


なれば支那民族が「陰陽不測謂之神」と伝承したる両儀が位置に依りて転還すると等しき關係なり。(表二)

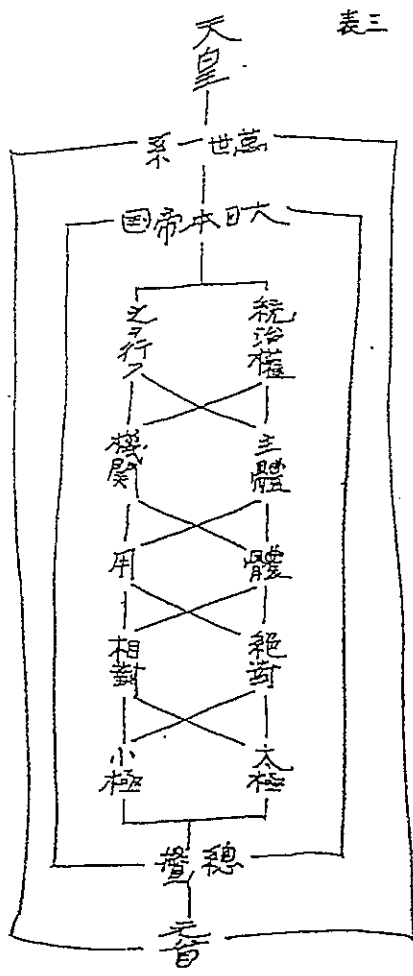
されば單に統治權を主體なりと云ふは行使を單に機關なりと思ふと等しく甚しき誤解謬見なり。

今、大日本帝國憲法の條文を其のまゝ圖表となすときは左の如く(表三)

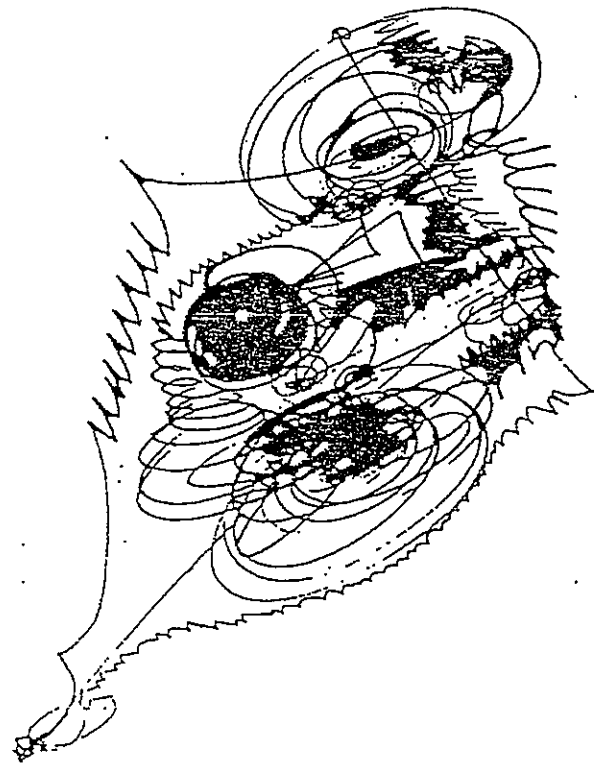
にして之れを天照坐皇大御神天照皇大御神天照大御神豊受比賣と称へまつることを得べき神皇系圖なり。佛教に云ふところの曼荼羅にして神界構圖の體系なれば則、日本國體にして、七重四室にして、阿彌陀にして、法身如来にして、佛にして、基督にして、國成りなりたるなり。大宇宙の大中心を中心



表二



表三



山谷 多田雄三先生の筆蹟

となしたる宇宙が大悟徹底して大宇宙と等しき妙用を現じたるなり。佛國にして神身にして明津神にてましますなれば、神代七代にして「如淨脂而久羅下那洲多陀用幣疏國」の「修理固成」されたる暁なり。神にして稜威にして上下君民領土財産天象氣流等の一切が統一魂として、統一魂神として、統一神として、統一玉として、天成り國成り成りたるなり。日神にして、一神にして、日にして、火にして、靈にして、魂にして、緋にして、氷にして、否に

して、非にして、非否にして、日止なるなり。「地水火風空」なると共に、「般若心」なる釈迦大日なり。過去七佛の築き成したる宇宙なり圓相なり。「八尺勾魂」の神儀尊容なり、阿阿比賀天咩爾咩由宇阿伊固宇の神挂なり。之れを(右の図十)其の尊容の一角となすなり。

以上 昭和十年十月三十日執筆

用語出典一覽

アマノカハラ 天河原	3行目 アマノヤスノカハラ 書紀 76頁 (天安河辺)	アメヤス カハ 古事記 62頁 (天の安の河)
ヒノカミヤ 日少宮	" 60-62頁 1行目	
アマノマナヅ (天真名井)	8行目 3行目 " 70-72頁	
ヒスミノミヤ 日隅宮	2行目 アマノヒスミノミヤ " 138頁 (天日隅宮)	
アマノウカハシ 天浮橋	" 22頁 ⁹ 、26頁 ⁷ では「天上浮橋」、122頁 ² " 130頁 ⁴ 、148頁 ⁸ 。	
"	古事記 伊邪那岐命と伊邪那美命	
"	1. 国土の修理国成 の段	
"	葦原中国平定 1 天菩比神 の段	
"	邇々芸命 3 天孫降臨 の段	
スガノミヤ 須賀宮	" 天照大御神と須佐之男命 6. 須佐之男命の大蛇退治 の段 (94頁)	
スミマ (皇孫)	書紀 120-122頁 ¹² 、132頁 ¹ 、142-144頁 ⁷ ¹	

故ニ。科学者ハ。之レヲ假定トナシ。學問ノ方便トナス。然レドモ。位置ノミ存ルモ、有ルコトハ有ルナレバ。無キニハアラザルナリ。故ニ。之レヲ一ナリトナシ。又。零ナリト呼ビ。零ナル一。一ナル零ナリトナス。サレド。零即一。一即零トハ云ヒ難キナリ。

此ノ「点」ナルモノハ。箇体タル経緯ノ存在ヲ分割シ尽シタル「極」ナレバ。無ニ似タル有トモ呼ブベク。零ニ等シキ一トモ称スベク。經無ク緯無クシテ位置ノミ有リトモ云フベク。始無ク終無クシテ生滅起伏ストモ云フベクシテ。皆共ニ便宜ノ説明ニ過ギザルナリ。月ヲ教フルノ指ト。古人ノ嘆ジタル指ナルノミ。日本民族ハ。古来。之レヲ言靈トシテ「ひ」ト教ヘ来レル神ナルナリ。之レヲ図示シテ○トナシ。又○トナシ。更ニ、◎トナス。共ニ「ひ」ナレドモ。○トシテハ零ニシテ一。◎トシテハ二ニシテ一ニシテ零。◎トシテハ三ニシテ二ニシテ一ニシテ零ナリ。之レヲ「ひ」「ふ」「み」ト教ヘテ。「極」ノ内容ヲ示シタルナリ。分割シ尽シタル小トシテノ極ナルト共ニ。総合シ統率シ得タル箇体トシテノ極ナルト共ニ。拡大シ發展シ尽シタル極ニシテ。又累積シ尽シタルノ極ニシテ。大ノ極ニシテ。小ノ極ニシテ。高ノ極ニシテ。低ノ極ニシテ。陰ノ極ニシテ。陽ノ極ニシテ。深ノ極ニシテ。幽ノ極ニシテ。頭ノ極ニシテ。遠ノ極ニシテ。広ノ極ニシテ。堅ノ極ニシテ。軟ノ極ニシテ。動ノ極ニシテ。静ノ極ニシテ。總ベテノ物ノ極ニシテ。總ベテノ事ノ極ニシテ。唯一点ナリ。極トシ云ヘバ唯一ナルコト勿論ナレバ。大ニモアラズ。小ニモアラズ。総合統一ニモアラズ。分裂割拠ニモアラズ。高低。深淺。遠近。幽顯。堅軟。動靜。等ニモアラズ。陰陽。男女。雌雄。乾坤。天地。等ニモアラズシテ。純一不可分ノ「ひ」ナルト共ニ重重無尽ノ「ひ」ニシテ。古老ハ之レヲ大虚空トモ呼ビ。大宇宙トモナシ。大宇宙ノ大中心トモ称シ。御中主トモ讚ヘ。母トモ呼ビ。父トモナシ。父母トモ称シ。「め」トモ

称シテ。陰ナルト共ニ陽ナル^{フタツノヒ}ニシテ。日ノ字源ト教ヘ来リシ^{フタツノヒカリ}二日ニシテ。一^{フタツノヒカリ}光ニシテ。両儀ト呼ベル太極ニシテ。胎ナル仏盤ニシテ。太平等海ニシテ。白玉光底ニ泉声潺湲タル天真井ノ水^{ミヅ}ニシテ。火^ヒニシテ。水ニシテ。両柱御祖神ト讃ヘテ。祖ナルナリ。

此ノ祖^{オヤ}ノ内容ヲ教ヘテハ。天^{アメノミ}祖ト称ヘ。天^{アメノミ}讓日天狹霧国^{アメノミ}禪日国狹霧尊ト尊ビ。天祖天讓日天狹霧国禪日国狹霧尊ト拜ミ来レルナリ。

人天万類ハ此コニ發現シ。此コニ歸入ス。發現シテハ有ト呼ビ歸入シテハ無ト名ヅケテ。零ニテモアリ。一ニテモアルナリ。而シテ。此ノ「ひ。ふ。み」トハ日本天皇御神儀ニ「生産^{イクムスビ}靈。足^{タルムスビ}産^{タマツメムスビ}靈。玉積^{タマツメムスビ}産^{タマツメムスビ}靈」ト称フル「少^{スク}名^{ナヒ}日」ニシテ。日本民族が「稜^{ミヅ}威」ト仰ギ来レル神威^{カミ}ニシテ。其ノ稜^{カミノミヅ}威^{ムスビムスビ}ノ産^{タマツメムスビ}靈^{タマツメムスビ}産^{タマツメムスビ}魂^{タマツメムスビ}タル魂^{タマツメムスビ}此ノ稜^{カミノミヅ}威^{ムスビムスビ}ガ稜^{カミノミヅ}威^{ムスビムスビ}ノママニ結ビタル時ソレヲ生^{イクムスビ}魂^{タルムスビ}。足^{タルムスビ}魂^{タマツメムスビ}。玉積^{タマツメムスビ}魂^{タマツメムスビ}ト称ヘ。コレヲ仰ギテハ高^{タカ}魂^{タマツメムスビ}ト称ヘ。之レニ抱カレテハ神^{カムミムスビ}魂^{タマツメムスビ}ト親シミ。共ニ讃メ称ヘテ「御祖^ミ命^メ」ナリト教ヘラレタルナリ。(先師ハ此ノ間ニ。たかみむすひ。かむみむすひ」ノ御名ヲ挙ゲラレタリ。然ル時ハ。生^{イクムスビ}魂^{タルムスビ}ガ「たかみむすひ」ナルベク。足^{タルムスビ}魂^{タルムスビ}ガ「かむみむすひ」ナルベシ。然レドモ。先師ハ単ニ其ノ位置ヲ指シテ。経ナルハ「たかむすひ」。緯ナルハ「かむみむすひ」ナリト云ヘリ。)其ノ「たかみむすひ」ナリ「かむみむすひ」ナリトシテノ稜^{カミノミヅ}威^{ムスビムスビ}ガ他ノ稜^{カミノミヅ}威^{ムスビムスビ}ヲ集メテ一ツノ神界ヲ築キタル時。之レヲ生^{イクムスビ}魂^{タルムスビ}ト称ヘ。其ノ集メラレタ稜^{カミノミヅ}威^{ムスビムスビ}ヲ足^{タルムスビ}魂^{タルムスビ}ト称ヘ。統一^{イツ}躰トシテノ生^{イクムスビ}魂^{タルムスビ}ヲ玉積^{タマツメムスビ}魂^{タルムスビ}ト称ヘマツリテ。三不可分ノ産^{イクムスビ}魂^{タルムスビ}ナリ。

其ノ生^{イクムスビ}魂^{タルムスビ}トハ。数トシテノ七ニシテ。実^{ジツ}ト呼ビ。空^{クウ}ト名ヅクル「六ノ零」ヲ外郭トシタル「一」ナルナリ。足^{タルムスビ}魂^{タルムスビ}トハ其ノ「零ナル六」トシテ。生^{イクムスビ}魂^{タルムスビ}ノ外郭ヲ築キタル空ニシテ坤ニシテ地ニシテ一ト画クナレバ。二ニ

シテ陰ニシテ凹ニシテ孔ニシテ。成リ成リテ成リ合ハザル「陰の初」ト呼ブトコロナリ。之レニ対シテ。成リ余
 レル「陽の初」ト云ヘルハ。生魂ナルコト勿論ナレドモ。

生魂ガ凸ニシテ。足魂ガ凹ニシテ。生魂タル凸ト。足魂タル凹トノ合体タル回ガ玉積魂ナリト云フニハアラザ
 ルナリ。其ノ玉積魂ト云ヘルハ。凹ニアラズ凸ニアラズ凹凸ニアラズシテ。凹凸ヲ現ハス本躰ヲ指シタルモノニ
 シテ「一なる点」ナリ。空ナル実ナリ。零ナル極ガ極ノママニ集積シタル統一躰ナリトノ義ナリ。故ニ。之レヲ
 統一魂神ト称ヘテ。内外自他ヲ統一シタル主神ナリ。「・―〇」ト描キテハ其ノ成立ノ順序ヲ教ヘ「〇〇〇」ト
 画キテハ君臣民人ノ別ヲ知ラシメタルナリ。

今彼ノ六ハ「」ト描キテ。外郭ヲ教ヘ。境地ヲ知ラシメ。宮殿ヲ築成シタルナレドモ。イマダ住者ヲ知ラズ
 鎮坐神ヲ拝シ得ザルナリ。

家屋宮殿ハ築キタレドモ鎮リイマス神モ無ク住ム人モ無キハ空界零界ナリ。之レヲ「む」ト呼ブ。極ニアラザ
 ルノ零ナリ。

極ニアラザルノ零ハ。之レヲ空零ト呼ビテ幽鬼妖魔ノ祖先ナリ。

此ノ幽鬼妖魔ヲ繋ギ止メタル数ハ「七」ニシテ。空ナル六ニ一点ヲ点ジタルナリ。

此ノ一点ヲ宮殿ノ主神トナシ屋内ノ主人トナス。宮殿ハ神ニアラズ。家屋ハ人ニアラズ。然レドモ。宮殿ヲ仰
 ギテ鎮坐神ヲ拝シ。家門ヲ敲イテ来意ヲ語ル。

六ハ空屋ニシテ七ハ主アルノ家ナリ。

アナカシコ。

此ノ七ヲ主魂トシテ築キ成シタル八十萬魂ヤソヨロツタマヲ足魂タルムスビト称シテ「九」ナル窮数トナス。此ノ時。生魂イクムスビタル主魂ハ七ニシテ一ニシテ。一トシテハ零ナル六ヲ外郭トシ。九ナル窮数ヲ統率シテ。十ナル満数ヲ完成セントシ。主魂ミタマトシテハ。八十萬魂ヤソヨロツタマノ足魂タルムスビヲ統治統率シテ。神界樂土ヲ築成セントス。

以上

次ぎに、新邦築成の神命を筆録して、此の篇を結ばう。

宣言

旧邦既に廢れて、新邦未成らず。

倩ら惟るに

渾球一円、人類の国を建つるもの幾千万億なるべきか。年曆また茫茫として太古に在り。国運の隆替、政躰の変遷、また甚頻なり。然りと雖、治者上に在りて、民人之れを仰ぐものは一なり。

是れ、人為に依るにあらずして、宇宙真理の顯現なるが為に然るなり。

抑、宇宙とは、経と緯との存在なり。経有るが故に緯有り。緯有るが故に経有り、之れを描いて⊕となす。之れは是れ、神の子乃ち神なる統一躰なりとの義なり。統一躰なりとは、中心と外郭との不二一なる事実を明に現し得た。「物」なりとの意なり。

夫れ、物は皆中心有り。中心有るが故に外郭有り。物は皆外郭有り。外郭有るが故に中心有り。中心と外郭とは不二にして不一にして別つべからず、離るること能はざるなり。是れを、

チチハハミオヤミオヤのノリトの説明

固の支那文字を見よ。

□古にして□□十にして⊕にして凝固の形象なり。

而して結實なり、結晶なり。

産靈にして産魂にして魂にして、結び止めたるなり。

十なる□の蒐集したる□なる固なると共に、□に宿りたる古

にして、根本魂と外郭身との團結體を指導したるなり。

之れを兒なり子なり孩なりとなす。

兒は儿なる人の宿るところにして宮なり。

子はかがまりたる人なり。他に依據するものなり。

孩は子女の未自立し得ざるものにして、唯其の核在るのみな

りとの義なり。

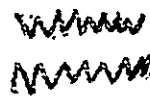
常陸國に小田と北條との二村有り。

鎌倉時代より今に至るまで相闘ぎ相争ふて止まず。

北條の水を小田に分たず。小田、之れが爲に耕耘にたへず。

仇敵境界を接するを亥と云ふ

孩の図



之れをハハと云ふ。

母胎に住み母血を吸ひ母乳を呑み、母を食料として生活せるもの即、孩なり。

而して母は之れを喜び、之れを愛撫し、之れを養育す。

これをマンコと云ふ。

七の妙用なり。

カミヨは七にして五にして八にして百にして千にして萬にして一二三四五六七八九十百千萬にして零なり。

之れをチチハハと呼び、ミオヤとも、オヤとも称へまつりてアメツチノカミワなる資料なり財貨なり。

あちめあちめあちめあちめあちめ。

ああひがてんじんゆうあいこ。

ちちははみおやみおやみなと。もとにさとりとさとり。さとりとさとり。さとりさとり。

あすばかすやぞ。さからかすやぞ。

おおおおおおおお。ああひがてんじんゆうあいこ。

ヒ
零(一)に内在する原理として、一二三があるように、

空零(六)に内在する性質として、^{んナヤ}六七八がある。と考えて良い。

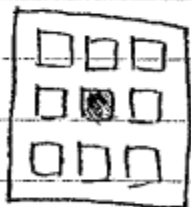
○ヒが二重相としては①であるが故に、

それは①となり、「^ヒ零の自己組織化」が可能となる。

同様に、空零もまた状況次第では陰陽不測のメとなる。

母としてのメと子としてのメの離合集散によって、また

簡体か成立する。これが ^{~~~~~}と描く「七の妙用」である。
(九)



(九→十)

九は中心(一)と外部(八)

これを一つにまとめて十とする。